国会図書館所蔵資料の閲覧 (17)町文化財専門委員 石瀧 豊美

報です。 今回取り上げるのは新しい情 紹介済みのものもありました。 5月号(連載、第207回)で 県の厚狭郡須恵村が含まれて だ、内容が同じだったり、山口 23件がヒットしました。た 全」という書名で、「須恵村」と す。今回は「日本登録商標大レクションの検索を続けま いたり、『広報すえ』令和5年 いう語句を含むものを検索し、 国立国会図書館デジタル

治38]年)掲載分ですが、第 上巻(東京書院、1905[明 図①は『日本登録商標大全』

> の図が描かれていました。 Kの文字に挟まれてこの米俵 ⑩の中央TRADEとMAR ています。その時引用した図 三氏については前回取り上げ 登録者は上須恵・田原弥三。弥 漏れていました。「ヒョウタ 207回で取り上げた際に ン型にくびれた米俵の図」で、 890(明治23)年11 :月登録。

組まれ、 は名の上の文字「弥」を連想さ せます。三は名の下の文字 の字は「田」を図案化し、矢羽 の付いた棒4本が井の字型に 次も田原弥三(図2)。 、中央に三の文字。 井

> う。なかなかひねりが利いて [三]を意味しているのでしょ 03(明治36)年1月。 品名は「煉薬」。登録は1

なっています 図②とで弥三氏の番地が異 図 **①** と 9

は1903(明治36)年11月、年)掲載。「有明の松」、「国開」 町の代表的な清酒でした。 ら「国開」は「こくかい」と読む 報社、1917[大正6]年)か 商標いろは索引』(特許商標月 37)年1月の登録。『清酒醤油 ようです。「須恵の松」は須恵 「須恵の松」は1904(明治 (東京書院、 も『日本登録商標大全』下巻 藤吉の[清酒]の商標。 図 **多** ❺は上須恵・安河内 905 (明治38) いずれ

象商品は「丸薬・水薬・散薬・膏 形を登録したということ。 字商標があり、この場合は図 せん。商標には図形商標と文 大全』第2輯・上巻(東京書院、 いているのではないかと想像 んが、日本神話の一コマを描 しています。商品名はありま 1908 (明治4)年)に掲載。 図6・7は『日本登録商標 1905(明治38)年5

> 直次郎。 月登録。 登録者は上須恵・村山

は「膏薬・水薬・散薬」、 (明治38)年9月登録。

会』に、「此須恵村は山里の片村玉蘭が著した『筑前名所図「正明膏」は目薬で、博多の奥1915(大正4)年7月登録。 代の須恵村・上須恵村を代表 せり」と言われたほど、江戸時 ゆへに都会の地のごとく繁昌 田舎なれども、正明膏あるが する有力商品になっていまし

そこに矢羽が2本並んでいる 枠の中に山形と扇形があり、 属スル商品一切」。1 となる商品は「薬剤及本類ニ (大正4)年11月登録。四角い

の表記が付いています。 8輯に掲載分はすべて横文字 院、1916[大正5]年)。 商標大全』第8輯・上(東京書 掲載はいずれも『日本登録

県内小学生徒美談』(磊落堂)

なお、有村重太郎編『福岡

こぎつけたのでした。教育熱

心な父、援助した4人の話を

対象商品

登録者 905

「煉薬」、商品名は「正明膏」。商品は は上須恵・田原安宅。

課題でした。

という図案です。 図のは須恵・吉松繁吉。 9 1 5 対象

ころ「子弟の文字を知るは其のような話がありました。その かった時代です。 弟を教育する熱意がまだ乏し の就学率を上げるのが行政の とわざがあったぐらいで、 1894 (明治27)年) に次の 破産の基なり」というこ 実際、 児童 子

情して援助し、無事に卒業に 恵の田原養朴・安河内藤吉・田 川高等小学校の4年に在籍し 学んでいて、15歳の男子は大 常小学を卒業して今は裁縫を 校に通わせ、12歳の女子は尋 が成長しました(15歳の男子 亡くなり、男女二人の子だけ 中で子どもは幼くして次々に の 原精一・田原弥三の4人が同 に陥りました。この時、上須 ず、退学せざるを得ない状況 ました。ところが学費が続か て、翌年春の卒業を控えてい いながら工夫して子どもを学 と12歳の女子)。次平は貧し したのでした。貧しい生活の ために19年前に上須恵に移住 上座郡(後に、朝倉郡の一部) 人でしたが、眼病の治療の 上須恵の次平という人物は

た。

矢羽 薬」で、 8二十二月一十早三十二分明 鉄砂 泰维 超一体 名品

快脳丸] というキャ 神経を鎮む。脳病全治 丸」という薬は以前から たのでしょうか。「快脳 たいどんな効能があっ になりそうですが、いっ でしょう。「快脳」は今で デザインを登録したの (『九州薬業家列伝』九州 は「のぼせを引き下げ、 の熊野天真堂の広告に もサプリメントの名前 年)。この場合は文字の ズがありました 山口県 ッチ 図1 図2 上頭巡共市上雲地 田 原 第三十七颗 液相 98 頭茶 Ξ

あったようで、

標大全』第12輯・上(東京書院、

920[大正9]年)。

図面は上須恵・須原松太郎

登録は1920(大

(大正7)年10月。『日本登録商

薬」(水剤)。

登録は1918

生徒の学資を援助したのでし 合って私財を拠出し、貧しい 製薬業。地域の有力者が話し 内藤吉は酒造業、田原弥三は 村長です。右記の通り、安河 の当主、田原精一は初代須恵 えます。田原養朴は田原眼科 美談として描いたものと言

> 全』第18輯・上(東京書 月。『日本登録商標大

商

図6

五百十五香地 安 何 青

1

図9

吉 松 繁

'n

図12

BURN 木 村 級大郎

第二三三五一號

奥模绘第三锋第二项遗形第九 七七二 七號

を終点状第一室七四〇八枚 を 数 5.547年人 月十七日

太陽目藥

Reg. No. 137408

標高額層 快腦

1924[大正13]

脳」(薬剤)。登録は

國限

日七十月一十年六十三日日

Reg. No. 75953.

Rev. No. 75979.

Reg. No. 126199

22

內內政及關

図像は田原弥三「快

921(大正10)年11

なむのでしょうか。

(中洲)にあった出版社です。 た。なお磊落堂は博多中島町

図⑩は村山直次郎、「太陽目



品」以外の文字は読み取れまあることは確かですが、「化学り22〔大正11〕年)。薬品で

フレー

標大全』第16輯・上(東京書院、 正9)年7月。『日本登録商





原表以

本登録商標大全』第17輯・上

1921(大正10)年3月。『日

(東京書院、

923[大正12]

亀は登録者自身の名にち

図4

安河内縣古

配が描かれています。

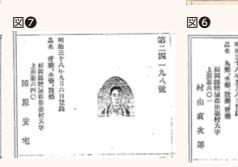
登録は

· 水剤)。

中央には行司の軍

撲をとっている図」(図形商 「土俵の中でウサギと亀が相

図ゆは上須恵・木村亀太郎、



図⑩

村山 直 次 郎 無塞六○一

日朝(木相)

図⑬



